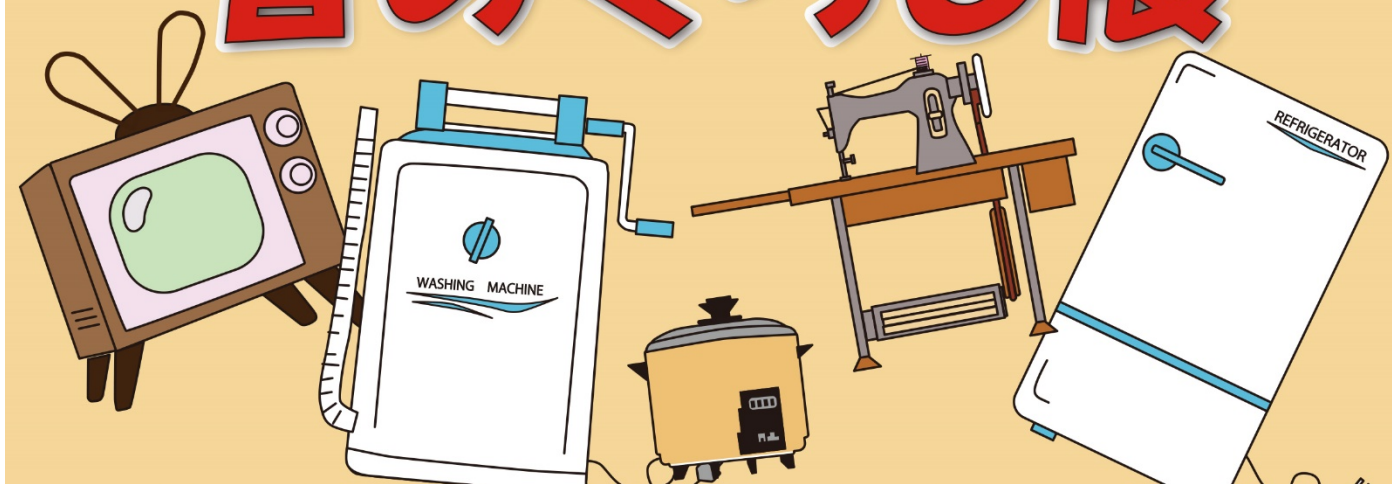


昔のくらし展



私たちのくらは、時代とともに変わってきました。その中でも大きく変わった時を2つあげると、1つめは江戸から明治が変わった時です。刀を持ったお侍さんがいなくなり、ヨーロッパやアメリカからいろいろな道具や服装、食べものなどが入ってきました。2つめは昭和40年前後の高度経済成長期といわれる時です。おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らしていない核家族が増えて、身のまわりの道具は電気によって動くものになっていきました。

ここでは、昭和40年前後の道具を中心に、「着る」「食べる」「住まう」「遊ぶ」「働く」の5つのテーマに沿って紹介していきます。

着る

江戸時代は着物を着ていましたが、明治時代に洋服が入り始めました。今のように、みんなが洋服を着るようになったのは昭和30～40年頃でした。それと同時に、はきものも下駄やぞりから靴に変わっていきました。洗濯機やミシンもこの頃に登場しました。



下駄

1本の木から作られていて、歯がすりへったら庭用にするなど、使えなくなるまで大切に使いました。



足踏みミシン

洋服を着るようになった明治期以降、使われるようになりました。明治期に国産ミシンが製作され、大正期には足踏み式が登場しました。昭和50年代ごろから、電気ミシンが主流となっていきました。



裁縫箱

昭和40年代に流行した西洋風の裁縫箱です。この頃普及したプラスチック製素材を用いています。



張り板

昔は着物が汚れると、全部ほどいてから洗い、うすく溶かした糊に浸し、張り板に張って乾かしてから縫い直していました。張り板は、嫁入り道具の一つともされていました。

洗濯板

明治期にアメリカから入ってきた洗濯をする道具です。ギザギザの面に布をこすりつけて洗います。昭和30年代に洗濯機が登場するまで使われました。



食べる

明治時代から、食事には和食の他に洋食が加わりました。それとともに、台所が土間から板の間になり、料理をするための火の燃料が、薪からガスに変わり、今ではオール電化になっている家もあります。調理道具も竹や木の製品から金属の製品にかわり、核家族が増えたため、小さい調理道具が多くなりました。



木製冷蔵庫

上の段に氷を入れ、下の段に冷やす食材を入れました。木製冷蔵庫が庶民に普及したのは、昭和30年代でした。昭和50年代には、家庭での電気冷蔵庫の普及率が99%になりました。



羽釜

昭和30年代ごろまでは、土間にかまどがあり、ご飯を炊くのに羽釜を使用していました。



電気炊飯器

昭和30年代以降、ご飯を炊く道具は、ガス炊飯器になり、その後電気炊飯器となりました。



棒秤

重さをはかる道具です。はかりたい物を皿にのせ、重りを左右に動かして、つり合わせます。つりあったとき、重りがある場所の目盛りで重さがわかります。



マッチ

明治期半ばから、一般家庭にマッチが普及しました。ガスの普及により、使用される機会が少なくなりました。

住まう

昭和40年代から、都会に近いところには団地ができました。その後、住まいは食堂、居間、寝室、子ども部屋など、個室に分かれた造りになっていきました。



鉄瓶

昭和30年代頃まで、居間と食堂を兼ねた囲炉裏の部屋があり、囲炉裏には鉄瓶や鉄鍋をかけて使用しました。



火鉢

灰の中に熾した炭を入れて暖を取ります。石油を燃料としたストーブの登場により、姿を消しました。

あんか

炭や石炭その他の粉を固めた燃料である豆炭を熱して中に入れると、一晩中温まることができます。やけどをしないように、布袋などに入れて使用しました。



カラーテレビ

昭和30年代に白黒テレビ、昭和50年代にカラーテレビが普及し始めました。

柱時計

ゼンマイ式の振り子時計で、1日に1回ネジを巻かないと止まってしまいます。



遊ぶ

明治時代になり、紙やガラス、金属の価格が徐々に下がり、メンコやベーゴマ、ビー玉、おはじきなどの遊びが登場します。昭和40年代からテレビが普及し、その後ゲーム機が登場したため、外で遊ぶ子どもの姿を見ることが少なくなりました。



メンコ

江戸時代は粘土を低温で焼いた泥メンコでしたが、明治中期頃に、紙のメンコが出てきました。



ビー玉

諸説ありますが、ビードロ（ガラスを示すポルトガル語）玉が語源といわれています。



おはじき

最初は貝殻や小石、木の実でしたが、明治後期からガラス製になりました。



ベーゴマ

ばい貝に粘土をつめて遊んだものが最初といわれています。鋳物製のものができたのは明治期以降で、大正期から人気が出ました。



お手玉

小さな布袋に小豆などが入っています。歌を歌いながら数個のお手玉を投げ上げて、受けたり拾ったりする遊びで、地域ごとに歌の違いがあります。

働く

関宿付近では、農業や漁業を営む人が多くいました。農業では水害に備え、二毛作で米と小麦を作る家が多くありました。今では農業を行う人が少なくなり、会社勤めに出る人が多くなっています。



唐箕(とうみ)

収穫したお米は、粳摺りをして粳殻を取り外します。これを唐箕の上から入れ、取っ手を廻して風を起こすと、軽い粳殻と重い実、中間のくず米に分けることができます。



筥(うけ)

川や湖などで魚を捕る道具です。中に餌を仕掛けておくと、魚が入って出られなくなる仕組みです。



ポッチ笠

頂点にポッチがある笠をいいます。素材はい草で、雨や日差しの強いときにかぶりました。最初は貝殻



背負い籠

背中に背負って、たくさんものを運べる便利な道具です。道具や収穫物入れとして多用されます。



風呂鍬

田畑を耕すときに使います。鉄が貴重だった頃は、木の台(これを「風呂」といいます)に鉄の刃をつけた形でした。